

研究課題番号	1-2303
研究課題名	自然外力の増加に適応する水環境保全に向けた有明海・八代海等の気候変動影響評価
研究実施期間	令和5年度～令和7年度
研究機関名	九州大学
研究代表者名	矢野 真一郎

1. 評価結果

評価ランク：A

2. 委員の指摘及び提言概要

貧酸素水塊の消長に影響を及ぼす要因の解析が進むなど順調に研究が進捗している。気候変動が貧酸素水塊の生起を通じて底生生物の生物多様性にどんな影響を及ぼすかについて、明らかになることが大いに期待できる。今後は以下の点に留意し、研究を進めていただきたい。1. 底層環境から底生動物の生息分布を予測する際の、水中での生物過程の定量化、2. 貧酸素化のメカニズムについて、潮汐振幅の長期的変化、風の効果（風速・風向）や波浪の効果も考慮した考察、3. 底生動物の生物攪拌の影響評価、などである。本研究の今後進展が有明海・八代海等の再生方策に寄与することを期待する。